# 第５回　軽井沢２２世紀風土フォーラム基本会議

【日　時】　平成２９年1月２４日（火）　１４：００～１６：０５
【場　所】　軽井沢発地市庭　イベントスペース
【出席者】　基本会議委員：朝比奈一郎委員、石坂洋二委員、市村初仁委員、
鈴木幹一委員、須永久委員、西山紀子委員、
横島庄治委員、志立正嗣委員、島崎アイコ委員、
貫名礼恵委員、青木健太郎委員、内堀英希委員、
遠藤寛士委員、児玉大輔委員

## 内　容

１．開　会

２．会長あいさつ

・ 風土フォーラムの役割について、軽井沢町の転換期である今、我々の変革は、無理をせずに道理を通し、民主的手続きを踏み、時間を掛けて話しをしている。基本会議がグランドデザインを受けた全体討論を行い、プロジェクトチームがエリアデザインの具体的政策論をする位置関係と考えると分かりやすい。
・ 風土自治の理想像は、住民、行政、基本会議という三角関係のコラボレーションである。周辺には条例やグランドデザインがある。基本会議とプロジェクトチームの関係は一部重なりながら、全体の構成を矛盾なく進めるという位置関係である。基本会議はグランドデザインを受けてい

るので、関連性、抽象論、理想論があり、全体を取り仕切る制度設計や根幹的な議論を行うのに対して、具体的な政策検討は、エリアデザインを基盤にプロジェクトチームに任せられている。相関関係は、基本会議の横にプロジェクトチームが張り出す位置関係で進んでいる。

- 基本会議の役割や基本会議と住民・行政の関係は「数値目標よりも環境整備」である。基本会議は制度設計とプロジェクトチームへの意思伝達、方向性の提示が主な役割。数値目標を設定する事がないわけではないが、考える環境を整えていく精神づくりという捉え方になる。10 年、20 年後に振り返った時、あの時の軽井沢は、開発圧力があり新しい血がどんどん流れこんだという、変化の曲がり角を明確に認識できることは間違いない。後悔が先にたたないような、先手打ちの概念設定を考えておくのが基本会議の役割で、定型パターンはない。住民はすぐには立ち上がれないので、具体的テーマを提示し、それを一緒に考えるのがプロジェクトチームである。その時の考え方を野球で例えるなら、基本会議が投げた球を、住民は多様に打ち返してくる。時には住民と一致した攻撃手法を開発することもできる。不適当な暴投があるかも知れないが、それらも含め住民に対して問題提起していく。そういう位置関係にあるとすれば、我々は住民の意識開発に対して、刺激剤となることは何でもやる必要がある。答えが住民から返されてきた時に、またそれに対しこちらから返していく相関関係を築くのが基本会議の趣旨である。
- ジョン・F・ケネディが「国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい。」という名台詞を残しているが、その精神が軽井沢に当てはまるとすれば、行政が町民に何かをするのではなくて、地域社会のために住民は何ができるのかを考えるという、入れ替わり現象が起きなければ、激変する軽井沢の環境に誤った対応になるのではないかと危惧する。お互いに協力しながら、行政から委嘱を受けている責任もあるので、是非何らかの形で成果を実のあるものにして、来年度に繋いでいきたいので、引き続きの協力をお願いしたい。

３．議　事

（１）風土フォーラム事務局に寄せられた意見等について

○これまでに風土フォーラム事務局に寄せられた意見等について、関係部署等の考えを聴取した。各委員には、最重要課題を一つ選択してもらい、次回会議においてそれぞれの考える最重要課題を協議し、町へ提言する。

○今後、風土フォーラム事務局では、「まちづくりに関する提案」実施要領に基づき、フローチャート的なツールを用意し、来局者の対応をする。

【意見交換】（発言順）

Ａ委員

①住民の意見を精査し、関係部署が関わりやすい形にして、関係部署課の対応が前向きに捉えた考え方になるように練り直すことが大事。

②テーマ別、地域別、まちづくり別にプロジェクトを構成する必要がある。

③行政として、何を実施していくのか決断する必要がある。

会長

①（Ａ委員の発言）について、各部署の対応を評価しつつ、実現可能な案を引っ張り出して育て上げる卵を見つけてほしい。

②は、時間経過とともに成果として現れることを期待したい。

Ｂ委員

関係部署の対応には、住民からの意見に対し実施してみるという回答がない。風土フォーラムから呼び掛けることや人のマッチングをしてファシリテートできる種をこの中から探せば、協働の場が生まれ、風土自治につながる。

会長

人材登録についての意見（軽井沢で余生を過ごす時間などに余裕がある優秀な人に、活動の場を与えるための登録制度を検討したらどうか。）は、企画として面白く磨き上げるには適している。発掘の目を光らせた意見がほしい。

Ｃ委員

色々な意見に対し、グループ分けをして可能性を探るのはどうか。

会長

意見を合算して一つの政策テーマにするという提案があれば、行政も対応しやすい。

Ｄ委員

プロジェクトをテーマ別、地域別、まちづくり別にするという意見に賛成。規模やクォリティーを考えた時に、基本会議に相応しいテーマがあると思う。まちづくりという括りで、一方通行の通りを増やすことや、自転車道の整備等、交通と産業に関するプロジェクトチームが出来るのではないか。

Ｅ委員

基本会議で取り扱う内容を考える中で、まちづくりを考える会や看板・景観についての会等との連携も踏まえ意見を反映させていくのがよい。また、この会議の意義について考える上でも、コンパクトシティは明確な軸が出来ていてよい。

Ｆ委員

行政だけでは難しいが、民間と手を組めば出来るかもしれない課題もある。ただボランティアを募集しても集まらないが、自分の会社の得意分野なら、地域住民に貢献していく関わり方等参加しやすいと思う。それを啓発し行政とマッチングして課題を解決していくのが、この基本会議の意義ではないかと感じる。

会長

行政と民間を広くグルーピングする発想はよい。町民提案について、基本会議での審議、結果を行政に反映するという柱の第一歩を踏み出した。次回は、意見一覧の中から、町に提示するテーマを一つ決めたい。

（２）軽井沢のコンパクトシティについて

〇軽井沢町のコンパクトシティ

・町長のコンパクトシティ提案に対する、基本会議での対応について意見をまとめる。（本日は、保留とする。）

・（町長の提案を受けるなら）テーマが大きいので、時間を掛けて議論を行い、新年度を目安に新プロジェクトチーム等について考える。

（３）プロジェクトチームについて

○グランドデザイン子供と考えるプロジェクトチーム（仮）について

・『チーム名』　「チームみらいえ」

・『座　　長』　基本会議委員　遠藤寛士委員

・『目　　的』　子供達が、町の多様な場所や人、資源に出会う冒険をし、活動を通して町の過去・現在を知る経験をして、自発的に町の未来について考える。子供達が考えた軽井沢の未来を、町の人が楽しめる形態・媒体で共有していく。

・『効　　果』　・軽井沢町に関心を持たせる。
・町の人々とコミュニケーションをとる。
・ネットワーク作りをして、風土フォーラムに繋げる。

【意見交換】

会長

活動のタイムスケジュール、参加人数の想定は検討しているのか。

Ｇ委員（チームみらいえ委員）

28 年度中にアウトラインを決定し､29 年度から年 4 回程度実施する予定。

Ｃ委員（チームみらいえ委員）

規模はこれから決める。

会長

参加人数は多い方が相乗効果もある。「チームみらいえ」のえは、絵画の絵に掛かっているのか。

Ｇ委員（チームみらいえ委員）

「未来の絵」と「未来へ」という掛け言葉になっている。周知の際には、「子ども達が考えるグランドデザイン」など補足説明を加える。

H委員（チームみらいえ委員）

学校教育との関係があるので、教育委員会の人にも加わってもらい、実施タイミングや活動について考えたい。

A委員

先の話になるが、姉妹都市等も巻き込み、活動を通して軽井沢を好きになってもらうのも面白い。

I 委員

豊島区と農協で農業体験交流を実施している。A委員の意見に発展させていくことは可能である。

J 委員

練馬区の小学校とカーリング体験を通じた交流をしており、講演会や感想文をもらうなどしている。ロゲイニングというオリエンテーリングのようなスポーツがあり運営側でチェックポイントを用意するのだが、このチェックポイントを「チームみらいえ」の活動の中で、子供独自の視点から設定してみると面白いと思う。チェックポイントが設定できれば、ロゲイニングは色々なパターンで実施できるので、観光連携にも繋がりよいと思う。

〇軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチームについて

・軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチームの進捗状況報告。

・しなの鉄道による（旧）駅舎記念館のテーマパーク構想の記事掲載についての経過説明。

（４）次回の基本会議について

・事務局に寄せられた意見の中から、町へ提言する最重要課題についての議

論予定。各委員には事前に提言すべき案を事務局へ報告してもらう。

・来年度に向けての意見交換。

・藤巻進町長、中村良夫名誉顧問出席予定。

【意見交換】

Ｊ委員

第３回基本会議時に提案した､｢軽井沢としてスポーツを通した QOL（Quality of Life）向上プロジェクトの始動」について、もう少しスケールダウンした方がよいというアドバイスを受けての、再提案をしてよいか。

会長

プロジェクトチームの立ち上がりが多いこと、またコンパクトシティの中に、Ｊ委員提案のスポーツ及びＤ委員から提案準備があるウェルネスは含まれていることもあり、コンパクトシティの中に検討項目を入れたいという考えもあるので、年度替わりまで待ってもらいたい。

Ｊ委員

Ｄ委員とも協力していきたいという話しをしているので、来年度とする。

Ｈ委員

まちづくり提案は、以前と同じ流れで継続しながら、基本会議に諮るという理解でよいのか。

事務局

以前は、町に提案をもらい町長がまちづくり委員会に意見を聞く形であったが、風土フォーラム発足と共に、まちづくり委員の役割は、基本会議委員にスライドしているので、制度、書類手続きは変わらない。ただし町長から意見を求められた場合は、風土フォーラム基本会議において、委員の意見を踏まえたうえで、提案者に町から回答する流れになる。まちづくり提案は協働ということを重く考えているが、来年度以降、提案してもらう際のハードルを下げるよう検討していきたい。

H委員

協働という主旨は理解しているが、提案がないのは、行政側が今のシステムの中で対応していくのが困難だからではないか。協働で実施する提案が出た場合、行政に動く覚悟はあるのか。

事務局

他課等に関する事まで、全て約束はできないが、グランドデザインを発表し協働で進めることについては、行政と町民、場合によってはNPOの協力等も視野に入れ考えていきたい。

（５）その他

〇機構改革について

・４月より、都市デザイン室（軽井沢２２世紀風土フォーラム事務局含む）は、企画課から総合政策課に名称変更する。

４．事務連絡

事務連絡

５．閉　会